

ペントナイトセメントミルクを用いたNFCの強度特性

近畿大学理工学部 正員 王井 元治
近畿大学理工学部 正員○川東 龍夫

1. まえがき

筆者らは既報において、NFC（まぶしコンクリート）に使用されるセメントペーストの水—セメント比（W/C）の範囲を拡大する目的から、ペントナイト—セメントミルクを利用したNFCの流動性、強度特性に関する検討を行った。本報告では、NFCの諸性質のうち、特にペントナイト—セメントミルクも含めた強度特性の実験結果について検討を行うものである。

2. 実験概要

1) 使用材料および配合 セメントは大阪セメント製普通ポルトランドセメントを、ペントナイトは群馬産、粗骨材は大阪碎石を用いた。ミルクの配合は、W/C = 0.50～0.70、ペントナイト—水比（B/W）= 0～0.06とし、粗骨材は、5, 6, 7号の各碎石を重量比で5:1:4に配合した。

2) 強度測定 ペントナイト—セメントミルクの強度はφ5×10cmの円柱供試体を使用し、NFCの強度試験はφ10×20cmの供試体にコンクリート歪検出機（東京衡機製造所、PTC-1型）を装着して行った。

3. 実験結果と考察

1) ペントナイト—セメントミルクの強度特性 (σ_m , E_m)

$B/W = 4\%$ を一定とし C/W を変化すると、各材令とも σ_m と C/W は一次式で示すことが可能である（Fig. 1）。W/Cを一定とし B/W を変化したミルクの σ_m は、 $B/W = 4\%$ 程度まで增加の傾向を示し、例えば

$W/C = 55\%$ において

$$\sigma_{28} = 209 + 0.5 B/W$$

$$\sigma_{28} = 315 + 1.1 B/W$$

$$\sigma_{28} = 354 + 0.9 B/W$$

となり、 B/W が大きくなる程この傾向は大きくなる。

Fig. 2 に B/W を一定とし、 C/W を変化したミルクの弾性係数 (E_m) を示す。この結果によると、 σ_m と同様に $E_m - C/W$ も一次の比例式で表わすことができる。しかし、 W/C を一定とし B/W を

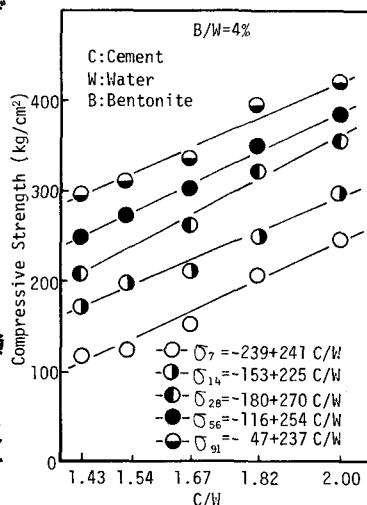


Fig. 1 Compressive Strength VS. C/W of Bentonite-Cement Milk

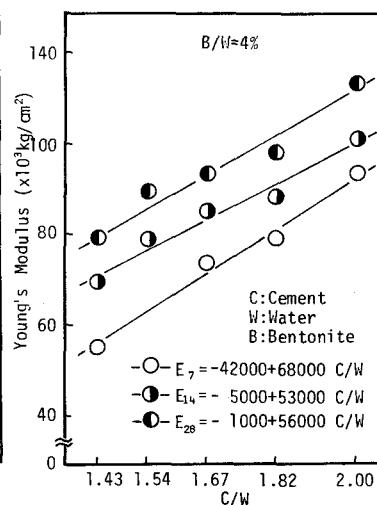


Fig. 2 Youn's Modulus VS. C/W of Bentonite-Cement Milk

増加すると、 σ_m とは逆に E_m は減少し、その傾向は材令の進行とともに大きくなる。

2) NFC の強度特性 (σ_n , E_n)

$B/W = 4\%$ を一定とし、 C/W を変化すると、NFCの場合も普通コンクリートと同様に一次式が成立する(Fig. 3)。 $W/C = 55\%$ を一定とし B/W を変化したミルクを用いると、 B/W が大きくなる程 σ_n も大きくなり、この傾向は材令の進行とともに顕著である。

Fig. 4 は $B/W = 4\%$ を一定とし C/W を変化したNFCの弾性係数(E_n)を示したものである。 E_n も σ_n と同様

に C/W , B/W , 単位ペースト量(骨材1kg当たりに投入されるペースト量)に比例して増加する傾向が得られた。

3) ベントナイトセメントミルクとNFCの関係

σ_m と σ_n の関係は、 B/W が大きくなるに従い σ_n が増加し、ベントナイトの混入がNFCの強度増加に寄与していることを示している。(Fig. 5)

Fig. 6 に、 E_m と E_n の関係を示す。この結果によると、 B/W の増加にともない E_m は減少するが、それとは逆に E_n は大きくなっている。こ

のことは、 E_n が骨材の弾性係数に依存する点が大きいために起こるものと考えられる。

3. 結び

ベントナイトセメントミルクを使用したNFCは、従来のNFCに比較して W/C の範囲を拡大することができ、ミルクの強度特性と同様に普通コンクリートの概念の導入が可能と考えられる。

(参考文献) 玉井山崎川東, 土木学会関西支部年次講演会, 1978

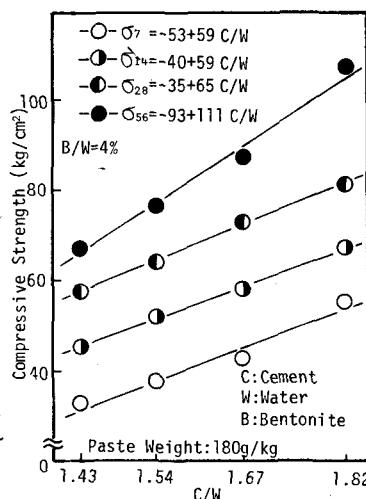


Fig. 3 Compressive Strength
VS. C/W of NFC

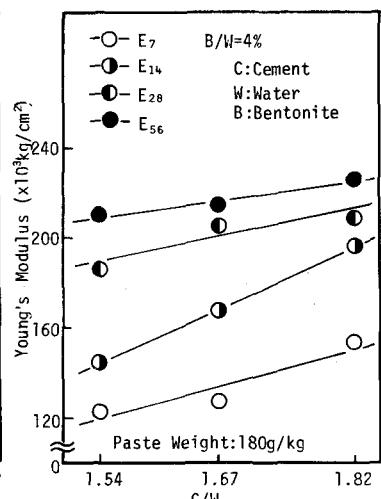


Fig. 4 Young's Modulus VS. C/W
of NFC

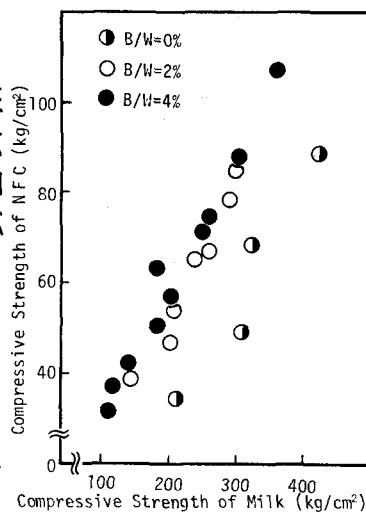


Fig. 5 Compressive Strength of NFC
VS. Compressive Strength of Milk

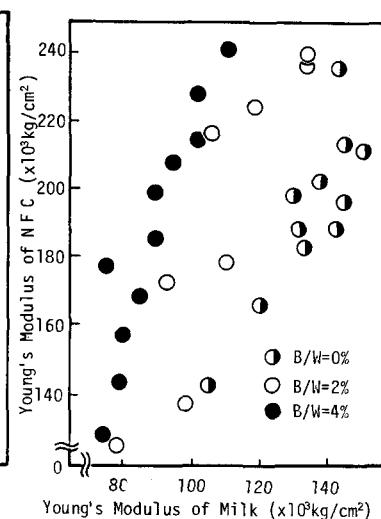


Fig. 6 Young's Modulus of NFC VS.
Young's Modulus of Milk